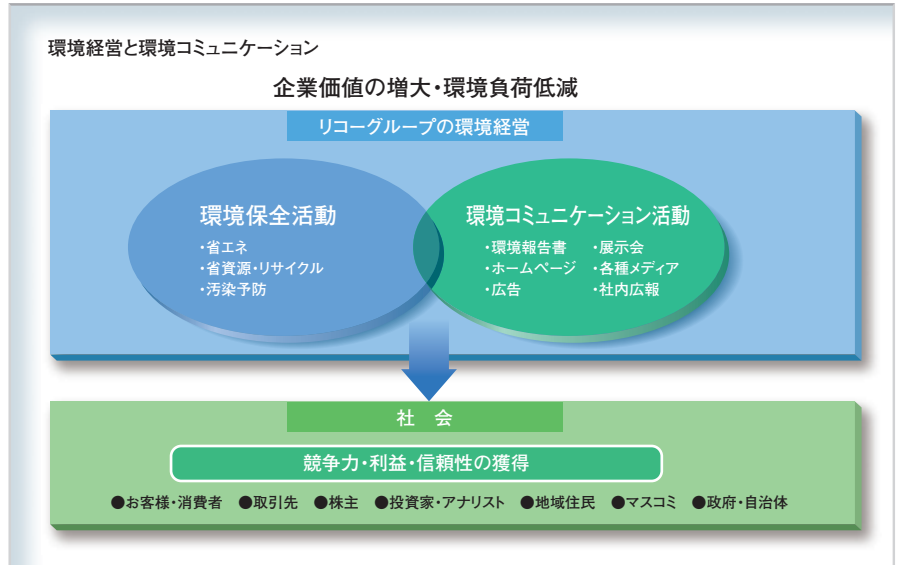


真摯な姿勢でコミュニケーションを図り、 循環型社会づくりに貢献しています。

社会から存続を望まれる企業であるためには、実際に環境保全活動を推進すると同時に、考え方や活動内容を多くの方々に知っていただき、社会からの信頼を得ることが重要です。また、活動事例を積極的に社内外に情報発信することは、さらに活動を促進し循環型社会づくりにも貢献することになります。リコーグループは、環境コミュニケーションと環境保全活動は環境経営の両輪であるという考えのもと、真摯な姿勢でのコミュニケーションを心がけています。



環境経営報告書

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年継続的に報告書を発行してきました。2002年7月に発行した2002年版からはタイトルを「環境経営報告書」と改め、リコーグループの環境経営の考え方や実績を開示しています。2004年の日本語版報告書(当報告書)は6月に発行しました。

報告書の発行時期と発行部数

		発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版	1999.1	26,200	30P
	英語版	1999.1	500	
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版	1999.9	51,300	32P
	英語版	1999.9	8,375	
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版	2000.9	45,950	60P
	英語版	2000.12	6,800	
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版	2001.9	25,950	74P
	英語版	2001.12	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版	2002.7	21,315	84P
	英語版	2002.9	6,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2003	日本語版	2003.6	21,045 (2004年4月 末現在)	84P
	英語版	2003.9	7,000	

サイトレポートの発行

リコーグループでは、事業を行う地域とのつながりを重視し、行政、事業所周辺の住民、社員の家族などとのコミュニケーション手段としてサイトレポートの発行を促進しています。2001年度には、「環境サイトレポート作成ガイドライン*」を作成し、グループ内で活用しています。2003年度には、新たに生産系事業所のリコー御殿場事業所、リコーやしろ工場、および非生産会社のNBSリコー、東京リコー、レニエスイス、リコーオーストラリアが発行し、リコーグループのサイトレポートは12件となりました。1999年以来発行を続けているリコー福井事業所では、2003年度から、レポート発行前の原稿を近隣の皆様にご覧いただきご意見を取り入れるなど、新たな工

事業所・関連会社のサイトレポート発行状況(2003年度)

	会社・事業所名	
国内	リコー厚木事業所、	リコー沼津事業所
	リコー御殿場事業所、	リコー福井事業所
	リコーやしろ工場、	東北リコー(株)、
	リコーロジスティクス(株)	東京リコー(株)、
	(株)NBSリコー	
海外	リコーインダストリーフランス、	リコーオーストラリア
	レニエ スイス	

夫を行い、第7回 環境報告書賞では4年連続でサイトレポート賞を受賞しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>

環境ホームページ

リコーの環境ホームページは、グリーン購入法対応製品や最新のニュースなど、調べたい情報を誰でも簡単に探し出せるよう、「見やすさ」「わかりやすさ」「使いやすさ」にこだわって制作されています。2003年度は、「みんなで選ぶエコWEB大賞」で一般審査員賞を受賞しました。また、子供向けページECO TODAYでは「テンペル・タートルストーリー」を掲載しており、中国、ブルネイ、マレーシアや日本での森林生態系保全活動の内容をやさしく解説しています。クイズやゲーム形式で環境問題について学ぶこともできます。このページは、環境ポータルサイト環境gooの環境goo大賞2003で優秀賞を受賞しました。



<http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday/>

環境広告

リコーの環境広告は、行政や企業の環境担当者、市民、環境保全関係者など、様々な立場の方々に、「実際の活動事例を紹介し、リコーグループの考え方を知っていただく」ことを目的に制作されています。



グリーン調達の広告 (日経エコロジー)



森林生態系保全の広告 (ナショナルジオグラフィック)



省エネ技術の広告 (日経ビジネス)

展示会

2003年12月、東京ビッグサイトで開催された環境総合展示会・エコプロダクツ2003に出展しました。リコーの出展テーマは「競争力ある環境経営へ」で、これまでの活動で得たノウハウ、最新の省エネ技術を搭載したimaggio Neo752シリーズ等の環境配慮型製品、仕入先企業とのグリーンパートナーシップで実現した技術やパーツ、廃棄物抑制型のプリンター納品システム、さらには研究開発中のリライタブル技術など、先進のエコ技術とグループ全社員による環境経営実現に向けた取り組みを紹介しました。



エコプロダクツ2003

講演会

リコーグループでは、経営トップ自らが、積極的に講演を行い、環境保全の重要性や環境経営の考え方について情報発信を行ってきました。2003年度は、WEC(世界環境センター)がアジアではじめて開催した国際会議「国際環境フォーラム」で、WECゴールドメダルの受賞企業として桜井社長がリコーグループの環境経営について講演を行いました。



国際環境フォーラムでの講演

2ウェイコミュニケーション

ステークホルダーとのよりよいコミュニケーションを目指して、事業所見学の受け入れやミーティングなどを行っています。2004年2月には、(社)中小企業診断協会東京支部三多摩支会のメンバー16名がリコー御殿場事業所を訪れ、工場見学とミーティングを行い、事業所環境管理責任者・担当者との間で活発な質疑応答が行われました。また2003年10月には、リコー青山本社事務所を訪れたグローバル・レポート・イニシアティブ(GRI*)のエルンスト・リヒタリンゲン代表とも意見交換を行いました。

* GRI(本部:オランダ・アムステルダム):国連環境計画(UNEP)の公認協力機関。企業の3つの側面(環境・社会・経済)にかかわる影響・パフォーマンスを評価し報告する国際基準「GRIガイドライン」の作成などを行っている。



御殿場事業所を見学する
中小企業診断協会東京支部三多摩支会様



GRI(グローバルレポートイニシアティブ)代表との
ミーティング